

## 内外交差点

# 業界の「創世記」

## タクシーと時代①

直井 幸男氏 (全自交東京地連書記長) 第1/6回

### ■創世記

タクシーに乗る人（乗客）、乗せる人（運転手）、どちらの立場も経験できるのは、タクシードライバーの特権である。

1958年生まれの筆者が、物心ついた時に初乗車したタクシーは、初乗り100円だったと記憶しているが、東京オリンピック開催（1964年）で、賑わっていた街並みを走るタクシーは、庶民の足として花形的存在で、子どもにはかっこよく見えたものだ。まだまだ自家用車は高嶺の花だったため、道路を走るのはバスやトラック程度でさしたる交通渋滞もなく、エアコンが装着されていなくても、窓を全開に開けていれば、心地よい風のあたりが爽快感を生み、優越感に浸れたものだ。

因みにその当時の物価状況を調べてみると、一人当たりの平均賃金が410,400円（年額）で、中華そば（外食）が59.4円、映画観覧料が221円、郵便はがきが5円となっていて、初乗り100円でタクシーに乗るというのは、けっこう贅沢なことだったのだろうと推測される。

その時乗車したタクシー車両はトヨタクラウンだったと思うが、現代の乗用車と比べたらレトロを通り越してお粗末さが半端なく、今の若者が見たらこんなものがよくタクシーとして走っていたと、感心するのかもしれない。

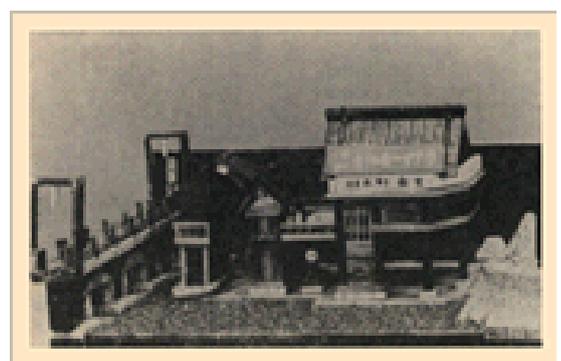
日本で最初に走ったタクシーは、1914年（大正13年）に営業を開始した、タクシー自動車株式会社（東京市麹町区有楽町）で、車両はT型フォードだったそうだ。運賃は東京市内なら一律で1円という運行形態から「円タク」と呼ばれていたが、1937年頃から現在と同じようなメーター制が導入されたそうだ。

その後タクシーの運賃改定は、1970年・130円、1973年・170円、1974年・220円→280円、1977年・330円、1979年・380円、1981年・430円、1984年・470円、1995年・650円、2015年・730円と続きながら、現在は500円となっている。因みにこれは初乗り運賃（基本は2キロメートル）で、2023年4月現在の初乗り運賃は1.096キロメートル500円で、爾後加算額は200メートル（1分35秒）で100円（いずれも普通車）で、時間制だと60分5360円、30分2450円となっている。

タクシー車両も時代とともにいろいろな車種が導入されたと思うが、概ねトヨタか日産の4ドアセダンタイプで、車いすごと乗車できるワンボックスカーや、燃費を考慮したプリウスなどのハイブリッド、リーフなどのEVも登場した時代があった。

個人タクシー事業者は、自由度が高くバラエティーに富んだ車種を使用しているケースもあり、ベンツなどの高級車や、レアな車両を時たま見かける。現在はタクシー専用開発したトヨタのJPN（ジャパン）タクシーが、UD車両としても主流となり、東京の町並みを縦横無尽に走り回っている。

<続く>



(上) タクシー自動車株式会社

(左) T型フォード